

PROGRAM

3月21日(水・祝) 13:00

紀尾井ホール

March 21 Wed. 13:00 Kioi Hall

主催：ジャパン・アーツ

J.S. バッハ：イギリス組曲 BWV 806～811

J.S. Bach: English Suites BWV 806-811

第1番 イ長調 BWV 806

No. 1 in A major BWV 806

- | | |
|------------|----------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラントI | 3. Courante I |
| 4. クーラントII | 4. Courante II |
| 5. サラバンド | 5. Sarabande |
| 6. プレI | 6. Bourrée I |
| 7. プレII | 7. Bourrée II |
| 8. ジグ | 8. Gigue |

第2番 イ短調 BWV 807

No. 2 in A minor BWV 807

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. プレI | 5. Bourrée I |
| 6. プレII | 6. Bourrée II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第3番 ト短調 BWV 808

No. 3 in G minor BWV 808

- | | |
|------------|---------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. ガヴョットI | 5. Gavotte I |
| 6. ガヴョットII | 6. Gavotte II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第4番 ヘ長調 BWV 809

No. 4 in F major BWV 809

- | | |
|------------|--------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. メヌエットI | 5. Menuet I |
| 6. メヌエットII | 6. Menuet II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第5番 ホ短調 BWV 810

No. 5 in E minor BWV 810

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. パスピエI | 5. Passpied I |
| 6. パスピエII | 6. Passpied II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第6番 ニ短調 BWV 811

No. 6 in D minor BWV 811

- | | |
|------------|---------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. ガヴョットI | 5. Gavotte I |
| 6. ガヴョットII | 6. Gavotte II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

PROGRAM

3月24日(土) 14:00

フィリアホール

March 24 Sat. 14:00 Philia Hall

主催：フィリアホール

J.S. バッハ：フランス組曲 BWV 812～817

J.S. Bach: French Suites BWV812-817

第1番 ニ短調 BWV 812

No. 1 in D minor BWV 812

- | | |
|------------|--------------|
| 1. アルマンド | 1. Allemande |
| 2. クーラント | 2. Courante |
| 3. サラバンド | 3. Sarabande |
| 4. メヌエットI | 4. Menuet I |
| 5. メヌエットII | 5. Menuet II |
| 6. ジグ | 6. Gigue |

第2番 ハ短調 BWV 813

No. 2 in C minor BWV 813

- | | |
|------------|--------------|
| 1. アルマンド | 1. Allemande |
| 2. クーラント | 2. Courante |
| 3. サラバンド | 3. Sarabande |
| 4. エア | 4. Air |
| 5. メヌエットI | 5. Menuet I |
| 6. メヌエットII | 6. Menuet II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第3番 ロ短調 BWV 814

No. 3 in B minor BWV 814

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. アルマンド | 1. Allemande |
| 2. クーラント | 2. Courante |
| 3. サラバンド | 3. Sarabande |
| 4. アングレーズ(ガヴョット) | 4. Anglaise (Gavotte) |
| 5. ジグ | 5. Gigue |
| 6. メヌエットI | 6. Menuet I |
| 7. トリオ(メヌエットII) | 7. Trio (Menuet II) |

第4番 変ホ長調 BWV 815

No. 4 in E flat major BWV 815

- | | |
|------------|---------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. ガヴョットI | 5. Gavotte I |
| 6. ガヴョットII | 6. Gavotte II |
| 7. メヌエット | 7. Menuet |
| 8. エア | 8. Air |
| 9. ジグ | 9. Gigue |

第5番 ト長調 BWV 816

No. 5 in G major BWV 816

- | | |
|----------|--------------|
| 1. アルマンド | 1. Allemande |
| 2. クーラント | 2. Courante |
| 3. サラバンド | 3. Sarabande |
| 4. ガヴョット | 4. Gavotte |
| 5. プレ | 5. Bourrée |
| 6. ルール | 6. Loure |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第6番 ホ長調 BWV 817

No. 6 in E major BWV 817

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. プレリュード | 1. Prélude |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. ガヴョット | 5. Gavotte |
| 6. メヌエット ポロネーズ | 6. Menuet polonais |
| 7. プレ | 7. Bourrée |
| 8. ジグ | 8. Gigue |
| 9. (プティ)メヌエット | 9. (Petit)Menuet |

PROGRAM

3月25日(日) 15:00

所沢市民文化センターミュージズ アークホール

March 25 Sun. 15:00 Tokorozawa Civic Cultural Centre MUSE Ark Hall

主催：所沢ミュージズ

J.S. バッハ：パルティータ BWV 825～830

J.S. Bach: Partitas BWV 825-830

第1番 変ロ長調 BWV 825

No. 1 in B flat major BWV 825

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. プレリューディウム | 1. Praeludium |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. コルレンテ | 3. Corrente |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. メヌエット I | 5. Menuet I |
| 6. メヌエット II | 6. Menuet II |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第2番 ハ短調 BWV 826

No. 2 in C minor BWV 826

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. シンフォニア | 1. Sinfonia |
| 2. アルマンド | 2. Courante |
| 3. クーラント | 3. Sarabande |
| 4. サラバンド | 4. Rondeaux |
| 5. ロンドー | 6. Capriccio |
| 6. カプリッチョ | |

第3番 イ短調 BWV 827

No. 3 in A minor BWV 827

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. ファンタジア | 1. Fantasia |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. コルレンテ | 3. Corrente |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. プルレスカ | 5. Burlesca |
| 6. スケルツォ | 6. Scherzo |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第4番 ニ長調 BWV 828

No. 4 in D major BWV 828

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. ウヴェルトゥール | 1. Overture |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. クーラント | 3. Courante |
| 4. アリア | 4. Aria |
| 5. サラバンド | 5. Sarabande |
| 6. メヌエット | 6. Menuet |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第5番 ト長調 BWV 829

No. 5 in G major BWV 829

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. プレアンブルム | 1. Praeambulum |
| 2. アルマンド | 2. Allemande |
| 3. コルレンテ | 3. Corrente |
| 4. サラバンド | 4. Sarabande |
| 5. テンポ・ディ・ミニエッタ | 5. Tempo di Minuetta |
| 6. パスピエ | 6. Passepied |
| 7. ジグ | 7. Gigue |

第6番 ホ短調 BWV 830

No. 6 in E minor BWV 830

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. トッカータ | 1. Toccata |
| 2. アルマンダ | 2. Allemande |
| 3. コルレンテ | 3. Corrente |
| 4. エア | 4. Air |
| 5. サラバンド | 5. Sarabande |
| 6. テンポ・ディ・ガヴョッタ | 6. Tempo di Gavotta |
| 7. ジグ | 7. Gigue |



©中島正之

コンスタンチン・リフシツ (ピアノ)

Konstantin Lifschitz, Piano

2015年、リフシツによる「ゴルトベルク変奏曲」の新録音がリリースされた。彼は最近、ラインガウ音楽祭におけるJ.S.バッハの鍵盤楽器作品の全曲チャクルスでも、この曲を演奏した。なお、リフシツが17歳の時に録音した同曲の最初のCDは、グラミー賞にノミネートされ、彼が今日の一流ピアニストの1人であることを確かなものとした。

1976年ウクライナのハリコフ生まれ。5歳でモスクワのグネーシン特別音楽学校に入学し、タチアーナ・ゼリクマンのもとで勉強を開始した。その後さらに、ロシア、イギリス、イタリアで、アルフレッド・ブレンデル、レオン・フライシャー、チャールズ・ローゼンなどに学んだ。

モスクワでのデビュー以来、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、ロンドン響などの有名オーケストラや、ロストロポーヴィチ、マリナー、ハイティンク、ノリントン、ユロフスキ、ヤノフスキ、スピヴァコフ、テミルカーノフなどの指揮者と共演。また、世界中の主要な音楽祭やコンサートホールでリサイタルを行っている。

室内楽にも熱心に取り組み、コパチンスカヤ、クレームル、ヴェンゲーロフ、ジョセフオウィッツ、マイルスキー、ロストロポーヴィチ、ハレル、ゲートマン、レーピン、シトコヴェツキーなどと共演。2014年1月には、榎本大進との共演によるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集が、ワーナー・クラシックスからリリースされた。

膨大なディスコグラフィには、彼の幅広いレパートリーが反映されており、その多くが極めて高い評価を獲得している。主なディスクには、バッハの「音楽への捧げもの」や「フーガの技法」、アイネムの協奏曲、ブラームスの協奏曲第2番とモーツァルトの協奏曲第18番などがある。なお「フーガの技法」は、何年にもわたって重点的に取り組んでいる作品である。またバッハ、シューマン、メトネル、スクリャーピンの作品を収録したデビューCDは、ドイツのエコー・クラシック賞を受賞した。

2018/19シーズンは、ドミトリー・リス指揮ウラル・フィル、アンドレイ・ボレイコ指揮ナポリ・フィルと共演し、ハンブルク、モスクワ、ミラノ他でソロ・リサイタルを行う予定である。また、東京・春・音楽祭、ランチョ・ラ・プエルタの音楽祭、第12回マリンスキー国際ピアノ・フェスティバル、トランス＝シベリア芸術祭、クナー・ホラ音楽祭、ロンドン・ピアノ・フェスティバル等多数の音楽祭に招待されている。

近年は指揮者としての出演も頻繁にあり、モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、日本センチュリー響、イ・ソリスティ・ディ・ナポリ、ヴェルニゲローデ・フィル室内管、ヴィリニユスのセント・クリストファー室内管、ムジカ・ヴィーヴァ・モスクワ、ルクス・エテルナとブダペストのガブリエリ合唱団、ファールンのダーラナ・シンフォニエッタ、ホーエネムスのアルベジョーネ室内管と共演している。弾き振りで、シュトゥットガルト室内管との共演でバッハの鍵盤楽器の協奏曲7曲全てをリリースしている。

ロンドンの王立音楽アカデミーのフェローであり、2008年からはルツェルン音楽大学の教授を務めている。

今年のリフシツの演奏会では、J. S. バッハ(1685~1750)の代表的な鍵盤組曲集が3つ取り上げられる。バッハの頃の鍵盤組曲は、基本的に同じ調のアルマンド-クーラント-サラバンド-ジグという4つの舞曲を中核楽章として綴られ、はじめに前奏曲、途中にはほかの舞曲や舞曲以外の楽章が加えられることもあった。アルマンドは2拍子系のゆったりとしたドイツ風舞曲、クーラントはフランス起源で「走る」「流れる」という意味の3拍子系の舞曲、サラバンドはラテン・アメリカ起源とされる3拍子系の荘重な舞曲、ジグはイギリスやアイルランド由来の6/8など複合拍子の舞曲というふうに、組曲では性格の異なる踊りが連ねられている。また当時の曲集は6曲や12曲をセットとして編まれることが多く、今回演奏される3つの組曲集はどれも6曲で構成される。それぞれに個性的な作品を、作曲年代順にどうぞお楽しみいただきたい。

編集部注：今回の演奏では、ペーレンライター版、ウィーン原典版(ウニヴェルザール社)、ロシアの各種出版社の楽譜等が混ざって使用されるが、解説はペーレンライター版にもとづいて記されている。

J.S. バッハ：イギリス組曲(BWV 806~811)

「イギリス組曲」は、イ長調-イ短調-ト短調-ヘ長調-ホ短調-ニ短調の6つの組曲で構成される。主音をつなぐと(A-a-g-F-e-d)、くしくも《イエスよ、我が喜び Jesu, meine Freude》という賛美歌の冒頭の旋律になる。この組曲集がイギリスと結びつけて呼ばれるのは、バッハの末息子が所有していた筆写譜に「イギリス人のために作曲」とあり、1802年にバッハの最初の伝記を書いたフォルケル(1749~1818)も「作曲者がある高貴なイギリス人のために作った」と記していることからである。当時のドイツの鍵盤楽曲は右手パートがソプラノ記号(ハ音記号)で記譜されることが多かったが、「イギリス組曲」の筆写譜の右手パートはト音記号で記されており、これがイギリスの慣習とも一致することから、この話の信憑性は高い。また、バッハが1717年から1723年まで仕えていたケーテンの侯爵は1711年にロンドンに滞在していたので、侯爵の紹介でイギリス貴族との繋がりができたのかもしれない。音域は低いラ(A₁)から真ん中のドの2オクターヴ上(c³)までで、当時の鍵盤楽器奏者が練習用に使うことの多かったクラヴィコードの音域(C~c³)を超えており、より音域の広いチェンバロでの演奏を想定していたと考えられる。その「高貴なイギリス人」の館には、チェンバロが置かれていたのだろうか。

バッハの自筆譜が残っていないため作曲年代は確定できないが、第1~4番はバッハがヴァイマル宮廷に勤めていた頃(1717年まで)に、第5~6番はそれより少しあとに作曲されたと推測されている。バッハの書き込みのある筆写譜(ベルリン国立図書館P 1072)では、タイトルが「前奏曲を伴う6つの組曲(Six Svittes, avec leurs Preludes)」となっており、前奏曲をもつのがこの曲集の大きな特徴であることがわかる。第1番の前奏曲は小ぶりで

フランスの即興的な前奏曲を思わせる始まりだが、あと5曲の前奏曲はイタリアの協奏曲の形式要素もとり入れた大規模な導入楽章となっている。

前奏曲の後にはアルマンド、クーラント、サラバンドが続き、どの曲でも一対の舞曲が挿入されたあとジグで締めくくられる。この楽章構成は、バッハの「無伴奏チェロ組曲」(BWV 1007~1012)と共通する。「イギリス組曲」第1、5、6番のジグが当時イギリス・タイプと呼ばれるものだったこと以外には、特にイギリスらしい音楽要素は見られない。たとえば、ジグの前に挿入される舞曲はブレ、ガヴォット、メヌエット、パスピエで、いずれもフランスの舞曲である。また、装飾音もフランス式のものが使われている。バッハは1709~1712年頃にデュパール(ca. 1667~1740)をはじめとするフランス人作曲家の鍵盤楽曲を筆写しており、フランス音楽の影響が見られるのも自然なことであろう。だがそれだけではなく、第2~6番の前奏曲の形式や第2~5番のアルマンドなどにはイタリア音楽の要素もとり込まれている。バロック時代においてフランスとイタリアの音楽は対比されることが多かったが、17世紀末以降、ドイツでは両者の融合が試みられることもあった。一方、ジグの前半に出された主題の転回型が後半のフーガで用いられることなどは(第3、5、6番)、ドイツ的な構成と言える。バッハは、このように当時のヨーロッパのさまざまな音楽要素をとり入れて作曲している。

第1番イ長調には初期稿が伝わり、あとの5曲より早く作曲されたと考えられている。即興的に始まる前奏曲は、フランスの作曲家デュパールやル・ルー(1660頃~1707)の作品との類似が指摘されている。第1番にはクーラントが2つ含まれる。これは、バッハの組曲では唯一の例であるが、同時代のフランスには同じ調の数曲のクーラントが並べられている例もある。ジグの前半、後半の終わりのほうには、バッハの組曲ではめずらしい強弱指示(p)がある。

第2番イ短調は、イタリアの協奏曲の形式要素をとり入れた前奏曲で始まる。サラバンドには装飾を加えた稿が別途用意されており、フランスの装飾法からの影響が色濃い。

第3番ト短調は、「イギリス組曲」のなかで最も親しまれている曲かもしれない。切れ味のよい主題をもつ3/8拍子の前奏曲や覚えやすい旋律をもつガヴォットは、耳にしたことのある方も多いただろう。趣深いサラバンドにはやはり装飾稿がある。

第4番ヘ長調の前奏曲は2声で模倣的に始まり、朗らかに進んでいく。アルマンドでは二連と三連の16分音符が併用されているのが特徴的である。

第5番ホ短調は、大規模な3声フーガで始まる。バッハと同時代の音楽理論家マッテゾン(1681~1764)が「重く悲しい調」と形容したホ短調らしい楽章が続くが、パスピエⅡはホ長調に転じ、高い音域とあいまって光が差すように感じられる。

第6番ニ短調は、曲集のなかで最も規模の大きい作品である。前奏曲にはゆっくりした導入部が置かれ、途中からアレグロのフーガとなる。一様な8分音符の流れにのったガヴォットは、牧歌的な雰囲気をもつ。最後のジグでは、主題のみならず前半の音楽のほぼ全体を後半で転回するという高度な対位法技法が駆使されている。